

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型児童通所支援 ミックスベリーONODA		
○保護者評価実施期間	令和7年1月 10日	～	令和7年1月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 12名	(回答者数)	11名
○従業者評価実施期間	令和7年1月 10日	～	令和7年1月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムが立案されていること。	個別療育、集団療育、その他の活動、自由時間等といった活動を1日のスケジュールに組み込み支援している。その他、不定期ではあるが、行事、地域学習、日常生活訓練などもプログラムとして取り組んでいる。1日の流れに沿ってみんなで同じ活動をするを基本としているが、自己選択の機会として、自分で活動内容を決めることができる時間も設けている。集団での活動を通じて、コミュニケーションを図る、ルールを守るなど社会性を身につけることができるように支援している。	個別療育は、現在職員と1対1で行っている。今後利用者様の年齢が上がっていくにつれ、職員の補助を少しずつ減らしていきさらなる自立を目指せるようにルーティンワークのような自立課題も取り入れていきたいと検討している。また、集団活動は曜日によって「月曜日は運動、火曜日は感覚遊び」などと活動内容を固定している為、参加できる活動に偏りがある。いろんな活動に参加できるよう活動内容を工夫することも今後は検討していきたい。
2	チームでの支援が行えていること。	一人ひとりの利用者にもモニタリングや定期的な療育の評価を行う担当職員を付けている。日々の支援については、利用の都度担当する職員を変え、複数の目で利用者を見て支援を行うことで、より多くの気づきを発見し、お子様一人ひとりに合わせた支援ができるように配慮している。変化や気になることがあれば担当職員に情報を共有し、適切な支援が提供できるように連携をしている。また、担当者が支援者会議に同席し、チームで支援計画を立案し実施できるようにしている。	事業所内では連携して支援を行っているが、学校や園など関係機関との連携については充実しているとは言い難く、今後関係機関との繋がりを強化できるような体制づくりが課題だと考える。
3	安全確保の対策が講じられていること。	送迎を運転手と添乗員の2名体制にしており、原則、学校などの関係機関の先生から直接引き渡しをしていただくようにしている。また、登降園管理システムを導入しており、車に乗った際や事業所に到着した際に保護者にメールでお知らせが届くようになっている。	現在の対応を継続、徹底し安全管理に努める。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	部屋数が少なく、個室を複数用意できないため、体調不良の際に休憩する場所やクールダウンするための部屋の確保が難しいこと。	事業所自体の生活空間が狭い。 部屋数が少ない。	現在使用できる環境の中で出来る限り「物品の整理整頓をする、活動に合わせて机や椅子の出し入れをする、パーティションで空間を区切る」ことで個室対応できる場所を確保する。
2	学校や保育園、幼稚園等との連携が十分ではないこと。	関係機関との情報共有する機会が少ない。(送迎時が主)	送迎時の時間を利用して日々の情報共有を行う。また、必要に応じて外部の施設(保育園、幼稚園、学校、他事業所など)と情報交換を行う機会を設けることを検討する。
3	地域との関わりが希薄であること。	事業所外での活動が少ないため、地域の方々と関りをもつ機会が必然的に少ない。また、地域参加型の行事や防災訓練などの実施も出来ていない。	公園遊びや買い物学習、地域と連携した防災訓練などの活動を計画し地域参加の機会を増やすしていくことが課題となる。